

日本小児循環器学会専門医カリキュラム

1) A, B項目のおよそ80%以上を達成していること。疾患の経験においては、大項目3の症例要約に記載した6疾患群から、それぞれ最低2例を含む計60症例以上を小児循環器担当医として経験していること。

検査は、心エコー100例、心臓カテーテル30例、運動負荷試験5例、ホルター心電図5例を経験していること。

2) 小児循環器担当医として、30例は症例要約を作成して評価を受ける。(小児循環器担当医とは中心となって診療を行なった専攻医のことである)

経験症例は1年間の40例の申請、症例要約は20例の要約作成を上限とする。

達成目標	検査法および治療法	病態理解	疾患各論	医療倫理・医療安全他
A	独立して、施行または判定できる	内容を熟知しており説明できる	担当医として経験する	講習会参加/ 適切に活用 できる/ 知識習得
B	指導医の下で、施行または判定できる	内容を理解している	指導医の下で経験する	
C	見学・研修・シミュレーションで経験	内容の概略を知っている	見学・研修・シミュレーションで経験	

	大項目	中項目	小項目	到達レベル
1	(1)心血管系の構造、発生、生理、疫学	正常な大動脈、大静脈、肺血管、気管	正常な大動脈、大静脈、肺血管、気管の解剖学的位置関係を理解している	A
2		冠動脈	冠動脈の正常な解剖と冠動脈の先天異常と先天性心疾患に伴う冠動脈異常を理解している	A
3		左右心房・心室・房室弁・半月弁	左右心房・心室・房室弁・半月弁の解剖学的特徴を理解している	A
4		区分診断法	区分診断法を用いて種々の先天性心疾患の解剖学的特性を表現できる	A
5		微細構造	筋原線維、収縮蛋白、横行管構造、筋小胞体などの心筋細胞の微細構造を理解している	B
6		正常な心臓の発生過程	正常な心臓の発生と発生過程の異常で生じる心疾患について理解している	B
8		胎児循環の特性と変化	静脈管、卵円孔、動脈管、大動脈峡部の役割や肺血管抵抗や左右心室の心拍出量変化を理解している	A
9		出生後の循環生理	出生後の肺循環、体循環の変化を理解し、胎児循環との違いを説明できる。	A
10		前負荷、後負荷、心拍数、心収縮と心拍出量	前負荷、後負荷、心拍数、心収縮が心拍出量へ及ぼす影響を理解している	A
11		心血管系制御	心血管系に対するカテコラミン/交感神経/コリン作用因子/甲状腺/ナトリウム利尿性ペプチドの役割を理解している	A
12			レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系の役割を理解している	A
13		体血管抵抗、肺血管抵抗 (Rs, Rp)	血管抵抗の概念と計測方法を理解している	A
14		肺血管の収縮・拡張	肺血管の収縮・拡張に関する因子を理解して管理・治療に応用できる	A
15		刺激伝導系	正常の刺激伝導系の解剖学や調律部位を理解して心電図が判読できる	A
16		活動電位	心筋細胞の活動電位の構成要素を理解して不整脈の治療を行える	B
17			電解質や代謝異常が活動電位に及ぼす影響を理解している	B
18	(2)小児心疾患（先天性、後天性）の疫学	先天性心疾患の発生頻度	先天性心疾患の発生頻度、同胞再発危険率について説明できる	A
19			喫煙やビタミンなど先天性心疾患の発生に関わる因子を理解している	B
20		遺伝学的診断	心血管系疾患における遺伝子診断の知識を有している	B
21		出生前検査・診断	出生前診断・検査の基本的な事項と倫理的問題を理解している	A
22	(3)身体所見	心拍数、血圧、呼吸数、脈	小児の循環特性と各発達段階における心拍数、血圧、呼吸数の正常値を理解している	A
23			末梢の脈拍の性状と疾患により生じる異常を理解している	A
24			上下肢および左右四肢での血圧差の意義について理解し診察できる	A
25		呼吸様式、呼吸音	異常な呼吸様式、呼吸音と心肺循環の関連を理解し診察できる	A
26		心尖拍動、振戦 (thrill) , 心音、心雑音	心音の発生機序と体位および呼吸による変化を理解し評価ができる	A
27			心音異常と種々の心雑音の発生機序を理解し評価、記載ができる	A
28		肺および体静脈うっ血の徴候	肺うっ血、体静脈うっ血、末梢の浮腫の認識とその意義を理解している	A
29		肝臓・脾臓	肝臓・脾臓を認識して萎縮・腫大の意義を説明できる	A
30		皮膚	心疾患における皮膚所見, チアノーゼ, 黄疸, 発疹, 毛細血管拡張などの発症機序や意義を理解している	A
31	(4)薬理学の基礎	陽性変力性の薬理作用・副作用・治療計画	ジギタリス製剤の排泄経路, 半減期および適応, 至適血中濃度, ジギタリス中毒の症状および特徴的心電図所見について説明できる	B

32			静注強心薬（カテコラミン製剤・ホスホジエステラーゼ阻害薬）の作用機序、適応と副作用について説明できる。	A
33		血管拡張薬の薬理作用・副作用・治療計画	静注血管拡張薬（ニトログリセリン、ニトロプルシド、ハンプなど）の作用機序、適応と副作用について説明できる	B
34			一酸化窒素吸入の作用機序、適応と副作用について説明できる。	A
35			アンジオテンシン変換酵素阻害薬、アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬の作用機序、適応と副作用について説明できる	A
36			肺血管拡張薬（プロスタサイクリン経路、一酸化窒素経路、エンドセリン経路）の作用機序、適応と副作用について説明できる。	A
37		利尿薬の薬理作用・副作用・治療計画	利尿薬（ループ利尿薬・ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬・サイアザイド利尿薬・バソプレッシンV2受容体拮抗薬）の作用機序、適応と副作用について説明できる	A
38		β 受容体遮断薬の薬理作用・副作用・治療計画	β 受容体遮断薬（カルベジロール、ピソプロロール、アテノロール、メトプロロール、ナドロール、その他）の作用機序、適応と副作用について説明できる。	A
39		抗不整脈薬の薬理作用・副作用・治療計画	ClassIの抗不整脈薬（リドカイン、メキシレチン、フレカイニド、プロカインアミド、ジソピラミド、シベンゾリン、ビルジカニド、その他）の作用機序、適応と副作用について説明できる	A
40			ClassIIIの抗不整脈薬（アミオダロン、ソタロール、ニフェカラン）の作用機序、適応と副作用について説明できる	A
41			ClassIVの抗不整脈薬（ベラパミル、ジルチアゼム、ベプリジル）の作用機序、適応と副作用について説明できる	B
42			アデノシン3リン酸の作用機序、適応と副作用について説明できる	A
43		動脈管作用薬の薬理作用・副作用・治療計画	プロスタグランジンE1の作用機序、適応と副作用について説明できる	A
44			インドメタシンやイブプロフェンの作用機序、適応と副作用について説明できる	A
45		鎮静・鎮痛・筋弛緩薬の薬理作用・副作用・治療計画	鎮静・鎮痛・筋弛緩薬（バルビツレート、ジアゼパム、抱水クロラール、ミダゾラム、デクスメトミジン、モルヒネ、ケタミン、フェンタニル、プロポフォール、ロクロニウムなど）の作用機序、適応と副作用について概説できる。	A
46	(5) 臨床循環動態生理	うっ血性心不全の病態生理	心筋収縮のメカニズム、心筋の構造を概説できる。心室収縮・拡張不全の全身臓器への影響を理解している	A
47			心不全の重症度分類を概説でき、増悪因子を指摘できる。	A
48			Fontan循環に伴う心不全の特徴を理解している	A
49		うっ血性心不全の診断	診察および心エコー検査、胸部X線、血液検査(hANP, BNPなど) などから心不全を評価・診断できる	A
51			核医学検査, MRI, CT, PETによる心不全の評価ができる	B
52		うっ血性心不全の治療	抗心不全、抗不整脈治療の作用機序、副作用を理解している	A
53			うっ血性心不全の非薬物治療を理解している	C
54		チアノーゼ	中枢性および末梢性チアノーゼの生理的意義、鑑別診断を説明できる	A
56		ショック	ショックを臨床所見から診断でき、治療と管理ができる	A
57		塞栓凝固の問題	血管内皮障害と血栓形成のメカニズムを説明できる	A
58			抗血小板薬, 抗凝固薬, 線維素溶解薬の作用機序, 治療と副作用を説明できる	A
59			深部静脈血栓, 肺塞栓を診断できる	B
60		肺高血圧症	閉塞性肺血管病変の原因（二次性を含む）、病態生理と病理学的特徴を説明できる	A
61			種々の検査から肺高血圧症の診断ができ、重症度に応じた治療と管理ができる	A
63			肺移植の適応基準、適応患者の予後が説明できる	C
64		失神	失神の原因と鑑別診断、検査による評価ができる	A
65		胸痛	胸痛を来す原因と鑑別診断を概説できる	A
66	(6) 臨床呼吸生理	解剖について	正常の肺、気管支の解剖を理解し、心臓と大血管の位置関係を説明できる	A
67		換気と血流の関係	動脈血酸素分圧の変化が、解離曲線、混合静脈血に及ぼす影響を説明できる	A
68			酸素投与が左右短絡及ぼす影響を説明できる	A
69			酸塩基異常の理解と共に異常をきたす原因を識別できる	A
70			血液・組織ガス交換および種々の病態が及ぼす影響を説明できる	A
71			無酸素発作で起こる血液ガス分圧, pHの変化を評価できる	A
72		呼吸のメカニズム	正常の呼吸気や病態や呼吸状態の異常が心血管系機能に及ぼす影響を理解する	A
73		人工換気	種々の病態を理解し循環動態を考慮した適切な人工呼吸管理ができる	A
74	(7) 臨床検査の原則	心電図検査	心電図の理論を理解している	A
75			年齢による変化を考慮した心電図の解釈ができる	A
76		運動負荷心電図	運動負荷心電図の適応と禁忌を説明できる	A
77			運動負荷のかけ方と中止基準を理解しており、結果を評価できる	A

78	携帯型心電図検査	ホルター心電図の適応や結果の評価ができる	A
79	モニター	パルスオキシメーターの原理、心疾患患者への適応を理解している	A
80	胸部X線検査	心疾患患者の胸部X線検査の適応と被ばくリスクを説明できる	A
81		先天性心疾患により生じる異常所見を関連付けて説明できる	A
82	心エコー検査	区分診断法に基づいた先天性心疾患の診断、心機能の評価ができる	A
83		Mモード/Bモード/ドップラー法の原理を理解し、所見を評価できる	A
84		組織ドップラーの計測法を理解し、評価ができる	B
85		コントラスト心エコーを行い、結果を評価できる	B
86	胎児心エコー	胎児心エコー基本断面を理解し診断できる	B
87	経食道心エコー	検査の適応及び合併症の理解する	B
88	心臓カテーテル・血管造影検査	心臓カテーテル・血管造影検査の適応と危険性と造影剤の腎機能に及ぼす影響について説明できる	A
89		検査で得られた血圧および酸素飽和度データから肺体血流比、短絡率を算出し病態を解釈できる	A
90		肺、体血管抵抗の算出ができる	A
91		圧と駆出量データから弁口面積を算出することができる	C
92		心血管造影からの心室容積、駆出率の測定と解釈ができる	C
93	胸部のコンピューター断層撮影 (CT)	心血管CT所見に基づいた心臓病の診断ができる。	A
94	胸部の磁気共鳴画像 (MRI)	心臓、大血管MRIの適応と鎮静に伴う危険性を理解している。	A
95		心血管MRI所見に基づいた心臓病の診断ができる	B
96	核医学検査	アイソトープの種類や検査法の適応につき判断し結果を解釈できる	B
97	血液生化学評価	赤血球指標の変化を理解し、粘性・高粘調度症候群を診断できる	B
98		動脈血液ガス分析を評価できる	A
99		心筋バイオマーカー (CK-MB, Troponin Iなど) の結果を評価できる	A
100	心肺運動負荷試験	運動負荷中の心拍数、血圧、心拍量、酸素摂取と消費および静脈還流の反応、心電図変化を理解している	A
101	電気生理学的検査	検査の適応と基本的な手技とデータの解釈ができ危険性を理解している	B

計101項目

各論

	大項目	中項目	小項目	到達レベル
1	(1) 先天性心疾患	非チアノーゼ性心疾患	心室中隔欠損, 心房中隔欠損, 動脈管開存, 房室中隔欠損の診断および管理ができる	A
2		チアノーゼ性心疾患	FalLOT四徴, 心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖, 心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖の診断および管理ができる	A
3		複雑心奇形	三尖弁閉鎖, 単心室, 両大血管右室起始, 修正大血管転位, 総動脈幹遺残などの複雑心奇形の診断および管理ができる	A
4		弁・血管の異常	大動脈弁狭窄 (弁上, 弁, 弁下), 大動脈閉鎖不全, 大動脈二尖弁など小児の大動脈弁疾患の診断および管理ができる	A
5			僧帽弁狭窄, Shone複合, 僧帽弁逸脱, 僧帽弁閉鎖不全など小児の僧帽弁疾患の診断および管理ができる	A
6			肺動脈弁狭窄 (弁上, 弁, 弁下), Ebstein病, 三尖弁異形成など小児の肺動脈疾患、三尖弁疾患の診断および管理ができる。	A
7		冠動脈、体静脈の異常	冠動脈壅、左冠動脈肺動脈起始、冠動脈起始異常、体動静脈壅、左上静脈遺残、奇静脈・半期静脈を理解している	B
8		臓器錯位症候群	心臓と内臓の位置関係/心房位置異常について臓器錯位、逆位、気管との関係を理解している	B
9			肺炎球菌感染を含む易感染など心臓とそれ以外の合併症について理解している	B
10	(2) 胎児の心臓異常	胎児心臓異常	先天性心疾患の胎児超音波の所見を理解し、出生後の予測ができる	C
11			胎児水腫の心臓超音波所見の特徴について理解している	C
12			子宮内発育を考慮した超音波所見を理解している	C
13			双胎間輸血症候群の血行動態の評価ができる	C
14		胎児不整脈	胎児心疾患について家族に話ができる	C
15			胎児仮死徴候を示す胎児心拍の所見を読むことができる	C
16			胎児の不整脈について理解している、期外収縮について知っている	C
17			胎児房室ブロックを来す母体疾患について危険因子とその自然歴を理解している	C
18	母体薬物による胎児への影響	母体のアルコール、抗てんかん薬等に関連した先天性心疾患を理解している	C	
19		サリチル酸製剤や非ステロイド系抗炎症剤の胎児動脈管への影響を理解している	B	
20	(3) 新生児	新生児特有の血行動態	胎児循環から肺循環への変化など出生前後の血行動態の変化を理解し、対応できる	A
21			早産児動脈管開存の診断、管理ができる	A

22			高濃度酸素テスト、プロスタグランジンE1の適応と副反応、酸素投与が禁忌とされる疾患の認識など新生児のチアノーゼへの注意点を理解し、適切に対応することができる	A
23		新生児期発症の先天性心疾患	動脈管依存性肺循環疾患（重症肺動脈弁狭窄、肺動脈閉鎖など）の診断および管理ができる	A
24			動脈管依存性体循環疾患（大動脈離断、縮窄など）の診断および管理ができる	A
25			動脈管依存性動静脈血混合疾患（大血管転位、総肺静脈還流異常など）の診断および管理ができる	A
26			遷延性肺高血圧（心疾患との鑑別、治療、心臓に対する影響）の診断および管理ができる。	A
27			甲状腺機能異常、代謝異常、糖尿病母体児における心合併症など心臓に与える影響を理解している	B
28	(4)成人先天性心疾患	先天性心疾患の自然歴・術後歴	各先天性心疾患の自然歴及び術後合併症・遠隔期の管理について理解している	B
29			慢性心不全の要因・特徴・治療について理解している	B
30			成人先天性心疾患にみられる感染性心内膜炎の特徴・リスク分類・診断・治療・予防について理解している	B
31			肺高血圧・Eisenmenger症候群の病態および内科治療・管理について理解している	B
32			Fontan型手術後遠隔期合併症・Failing Fontanについて理解している	B
33		画像診断法	CT・MRI・核医学検査・経食道心エコーの有用性と評価法について理解している	A
34		妊娠出産	妊娠・出産が心臓に及ぼす影響を理解しリスクを評価できる	A
35			妊娠・授乳時の薬物動態と投与方法について理解している	C
36		若年成人特有の問題	患者自身による病気の理解を促し心内膜炎・生活習慣病の予防についての指導を行うことができる	A
37		社会心理的問題	心理的問題点、医療保障制度、保険制度、身体障害者認定、年金について理解している	A
38			就労、運転免許取得、運動、飲酒、喫煙などに関する指導について理解している	B
39	(5)不整脈	不整脈に基づく臨床症状	動悸、痙攣、失神発作、心不全、突然死などについて理解している	A
40		不整脈の発生機序	リエントリー、異常自動能、トリガーDアクティビティー（撃発活動）などについて理解している	A
41		心電図の特徴	各種不整脈の心電図の特徴や種々の疾患に合併する不整脈を理解し、心電図診断ができる	A
42		治療	薬物・非薬物治療、ペースメーカ・電気的除細動・カテーテルアブレーション・植込み型除細動器の適応・管理・問題点について理解している	A
43		各種不整脈の診断と治療	心房細動・心房粗動、洞不全症候群、上室期外収縮、上室頻拍、心室期外収縮、心室頻拍、完全右脚ブロック、房室ブロック、WPW症候群、QT延長症候群、Brugada症候群、先天性心疾患に関連した不整脈の診断・治療ができる	A
44		心電図判定	「学校心臓検診二次検診対象者抽出のガイドライン」・「点数制による小児心電図心室肥大判定基準」に基づいて判定できる	A
45		二次精密検診	「学校心臓検診二次検診以降の進め方」に従った精密検診の経験がある	C
46		管理	「学校生活管理指導表」の活用・「器質的心疾患を認めない不整脈の学校生活管理指導ガイドライン」・「川崎病管理基準」・「先天性心疾患の学校生活管理指導指針ガイドライン」に沿った管理を理解している	A
47	(7)川崎病	疫学	川崎病罹患率、再発率、家族内発症率、心血管病変合併率、死亡率について理解している	A
48		診断基準	「川崎病診断の手引き」を理解し診断の経験がある	A
49		臨床経過および検査所見	川崎病の心血管病変を理解している	A
50			心エコーによる冠動脈径の計測ができる	A
51			血管造影の適応と評価・運動負荷/心筋シンチの適応と評価についての理解している	A
52		管理	「川崎病急性期の標準的治療」に沿った急性期治療および「川崎病心臓血管後遺症の診断と治療に関するガイドライン」に沿った遠隔期治療を理解している	A
53	(8)心筋、心膜、心内膜、心臓腫瘍	感染性心内膜炎の診断と治療・予防	ガイドラインに沿った、適切な抗菌薬等の管理ができる	A
54			手術適応を理解し、適応について理解している	B
55		心筋症の診断と治療	特発性心筋症（拡張型・肥大型・拘束型・不整脈源性右室心筋症、心筋緻密化障害）と二次性心筋症。病因・疫学・生理を理解し、診断・治療した経験がある	B
56			補助循環導入の判断の経験がある	C
57		心筋炎の診断と治療	心筋炎の診断・内科的管理を理解している	B
58			心筋炎の補助循環導入判断の経験がある	C
59		心膜炎・心膜病変の診断と治療	心膜炎、心膜切開後症候群、収縮性心膜炎の診断・治療を理解している	B
60			心タンポナーデが診断でき、心嚢穿刺の適応を理解している	B
61		心臓腫瘍の診断と治療	心臓腫瘍の診断と治療を理解している	C
62		膠原病・リウマチ熱の循環器管理	心血管病変に対する評価と管理を理解している	C

63	(9) 心血管系の遺伝性疾患と症候群	脂質異常症の診断と治療	脂質異常症（家族性高コレステロール血症を含む）の診断と管理を理解している	C
64		神経筋疾患の診断と治療	神経筋疾患に合併する心血管病変の評価・管理を理解している	C
65		先天性代謝異常症に伴う心血管病変に対する評価と治療	Pompe病, Fabry病, 糖原病, ムコ多糖症, リビドーシスなどの心合併症を理解している	C
66		染色体・遺伝子疾患に伴う心血管病変に対する評価と治療	21, 18, 13トリンミー, 22q.11欠失症候群の心血管病変に対する診療の経験がある	A
67			Turner症候群, Noonan症候群, RAS/MAPK症候群の心血管病変を理解している	C
68		Marfan症候群と類縁疾患に伴う心血管病変に対する評価と治療	Marfan症候群・Loeys-Diez症候群・Ehlers-Danlos 症候群に伴う心血管病変を理解している	C
69		ミトコンドリア病の心血管病変に対する評価と治療	ミトコンドリア病の心血管病変を理解している	C
70	(10) カテーテル治療	血管形成術	肺動脈・大動脈・体肺側副短絡へのバルーン拡大の適応判断や施行の経験がある	C
71		弁形成術	肺動脈弁・大動脈弁へのバルーン拡大の適応判断や施行の経験がある	C
72		心房中隔裂開術	(完全大血管転位症などの) 心房中隔裂開術の適応判断や施行の経験がある	C
73		コイル塞栓術	動脈管開存症や体肺側副血行に対するコイル塞栓術の適応判断や施行の経験がある	C
74		ステント留置術	肺動脈・大動脈・静脈へのステント留置の適応判断や施行の経験がある	C
75		閉鎖栓留置術	心房中隔欠損症と動脈管開存症に対する閉鎖栓留置術の適応, 禁忌を理解している	C
76	(11) 外科治療に関連する諸問題	周術期の問題	手術前後の循環動態の変化を説明できる	A
77			周術期の不整脈の診断や治療の経験がある	B
78			周術期の感染症の診断や治療の経験がある	B
79			周術期の呼吸管理を行った経験がある	B
80			補助循環の適応判断について理解している	C
81			術後の抗凝固療法、抗血小板療法の適応判断や治療の経験がある	B
82			術後合併症（出血、血栓症、脳塞栓症、心筋虚血、輸血に関する問題、心膜切開後症候群など）について説明できる	B
83		術後遠隔期の問題	残存病変の評価や治療の経験がある。	A
84			術後遠隔期の不整脈の診断や治療の経験がある	B
85			長期的な抗凝固療法、抗血小板療法の適応判断や治療の経験がある	B
86		人工弁	人工弁の適応や弁の選択について説明できる	B
87			人工弁の機能評価と治療・管理について説明できる	B
88	(12) その他の諸問題	心肺蘇生	心臓突然死（蘇生例を含む）の鑑別診断を理解している	B
89			心肺蘇生法の理論を説明し、実践することができる。AEDを躊躇なく使用することができる	A
90			ICD植え込みの適応を説明できる	B
91			心停止後症候群の治療・管理と予後評価を説明できる	C
92		移植	心臓移植、肺移植、心肺同時移植の適応と選択基準、脳死判定について説明できる	C
93			人工心臓の適応と管理について説明できる	C
94			移植後の長期管理について説明できる	C
95		血圧異常	高血圧の鑑別診断や治療を行った経験がある。高血圧の臓器合併症について説明できる	B
96			低血圧の鑑別診断と対処を理解している	B
97			起立性調節障害の診断と治療や生活管理を施行したことがある	B
98		生活習慣病	肥満症に伴う心血管病変の診断や生活管理について理解している	C
99			脂質異常症の診断と治療、心血管合併症の評価について説明できる	C
100			メタボリックシンドロームの診断、喫煙に伴う心血管合併症の評価や禁煙指導について説明できる	C
101	(13) 医学研究の統計解析と倫理	統計解析	臨床研究デザインの分類とバイアスや、統計解析の推定と統計的仮説検定を理解している	A
102		倫理	「人を対象とする生命科学・医学系研究の倫理指針」や「遺伝子治療等臨床研究に関する指針」を理解している	A
103			医学研究における利益相反（COI）を理解し概説できる	A

計103項目

3.症例要約

経験症例要約の提出

※小児循環器担当医として、患者管理や治療方針の決定に当たった症例についてのみ症例要約の提出を認める。(但し、同じ症例を同一施設で研修期間が重なる2人以上の専攻医が症例要約に用いることは登録できない)

※研修修了時までには6領域の合計60症例の経験を必須として、その内30症例については症例要約を提出する。(1領域につき2症例以上含むこと)

※病型分類等が異なっても診断名および病態が同一の疾患は、2例までの申請しか認められない。ただし、治療が必要な合併症 (VSD+PH, VSD+AR, ASD+治療が必要なPS, など) があれば別な病態としてよい。

※1年間の経験で20症例の要約を上限とする

領域	具体例・定義
1. 遺伝性および後天性心疾患	出生後に異常が現れる疾患。川崎病, 心筋炎, 心筋症, 代謝異常による心筋症, ミトコンドリア病など。
2. 不整脈 (イオンチャンネル病を含む)	診断・治療・管理
3. 新生児	生後28日までの新生児の心疾患の診断・治療・管理
4. 成人先天性心疾患	16歳以上の先天性心疾患の診断・治療・管理
5. 周術期管理	手術を含む期間の心疾患の診断・治療・管理
6. その他	乳幼児期・小児期の先天性心疾患や、1-5にあてはまらない心疾患の診断・治療・管理

*30症例のうち、心臓カテーテル(5例)、心エコー (5例)、運動負荷心電図もしくは心肺運動負荷試験(2例)、ホルター心電図検査 (2例)の報告書を添付すること。検査ごとにそれぞれ異なる疾患を添付する。

*心電図、心エコー図、その他の画像 (心血管造影、ホルター心電図、トレッドミル、CT, MRI等) のうちどれか一つの画像を計3症例に添付する。1例以上は心電図とする。

4.経験リスト

心エコー 100例	施行日、年齢、性別、診断
心臓カテーテル 30例	施行日、年齢、性別、診断と結果の要点
運動負荷試験 5例	施行日、年齢、性別、診断と解析結果
ホルター心電図 5例	施行日、年齢、性別、診断と解析結果
心臓健診への関わり	地域・概数・1次スクリーニングまたは精査の別などの概要